

集合知を利用したトラブル回避能力測定法の提案

竹内 俊彦^{*1*4} 若山 昇^{*2*4} 山本 美紀^{*2*4} 草山 太一^{*2} 立野 貴之^{*3}

駿河台大学^{*1} 帝京大学^{*2} 松蔭大学^{*3} 教育テスト研究センター^{*4}

非認知能力の 1 つに「他の人とうまく関わる力」がある。その能力を「人間関係のトラブル予測能力」と定義しなおせば、1 つの物語を 2 つの立場から描いたマンガを読み、「あなたが登場人物 A だったらどれくらいの確率で以下の選択肢の行動をするか?」「あなたが登場人物 B だったら、登場人物 A の各選択肢の行動にどれくらい満足するか?」という 2 つの質問に回答してもらい、全員の答えを組み合わせる。回答者が自分で予測する満足度と、現実のみんなの満足度との一致度によって、人間関係トラブル予測能力を測定できる、というのが本研究の提案である。

「母親が息子にオレンジジュースのお使いを頼む。息子はいちばん近くのコンビニ A まで行くが、母親の求めるオレンジジュースはなかった。あなたが息子の立場だったら、あきらめて帰るか、別の果物ジュースを買うか、コンビニ B にも行くか、さらにコンビニ B にもなければコンビニ C まで探しに行くか、母親に電話するか。また母親だったら息子の行動にそれぞれどれくらい満足するか」というオレンジジュース問題を例として 2020 年 11 月 15 日に実験を行い、実験参加者に回答いただいた結果を過去の実験データと合わせて計算した。その結果、たとえばオレンジジュース問題の場合、自分が母親からオレンジジュースのお使いを頼まれた息子であった場合、最初の店 A にそのオレンジジュースがなかった場合、そのまま帰宅すると母親からの評価は-100~+100 の間で -56 点、コンビニ A で電話して母親に指示を仰ぐ人は 56%で、その場合の母親の費用価値は +62 点となるといった結果が得られた。

本研究によって、「人間関係のトラブル予測能力」を測定する方法の一例を示し、具体的にどんな行動をすれば周囲はどの程度、満足するか、またトラブルが起きる確率がどれくらいで、誰との間に起きやすいかを推測する方法を示せた。

キーワード：非認知能力，人間関係，マンガ，実験